

マンホールカードの楽しみ

審査第一部長 谷山 稔男

1. マンホールカードとは

みなさんは「マンホールカード」をご存じだろうか。マンホールには自治体ごとに異なるデザインが施されている。そのデザインは多種多様であり、特にカラーリングしたマンホール（デザインマンホール）を設置する自治体も多い。このような特別なマンホールをカードにしたものがマンホールカードである。カードの表面にはマンホールの写真を掲載し、裏面にはデザインの意味や町の歴史などが記載されている。テレビ、自治体広報、ツイッターなどで紹介されており、ご存じの方も多いのではないだろうか。

マンホールカードは下水道広報プラットフォーム（GKP）が発行しているが、このGKPとは、下水道の理解を深めるために設立された組織である。その広報の一環として、2016年4月1日にマンホールカード第一弾を発行し、現在は第十一弾までシリーズ化され、502自治体から605種類が発行されている。

2. きっかけ

私の最初のコレクションは、小学生低学年時代の仮面ライダーカードである。仮面ライダースナックの袋の外側にステイプラーで止められていたように記憶している。仮面ライダーのカードが出ると嬉しかったが、死神博士が出ると悲しくなった。その後、子供達に非常に人気が出たため、カードの収集が目的となってしまい、スナックを食べずに捨ててしまうことが社会問題になった。しかし、私がコレクショ

ン好きかと言えば、どうやらそうでもないようだ。その後、プロ野球カードやファストフードのおもちゃを集めてみたが、全種類コンプリートするまでの執着心はなかった。

こんな私がマンホールカードに出会ったきっかけは、2018年10月に愛媛県松山市へ出張したときだ。用務が終わったので、夕食の前に「坂の上の雲ミュージアム」に出かけた。展示を一通り見終わった後、ミュージアムのインフォメーションの横を通ると、マンホールカードを配布していたので、軽い気持ちで記念に一枚もらった。表面には、松山市の花である「ヤブツバキ」が描かれた綺麗なカードであり、捨てることなく東京まで持ち帰り、オフィスの引き出しに保存していた。これが最初のマンホールカードである。



©GKP

その後、仕事の関係で公共カードを調べていた際に、せっかくなので参考になる公共カードを自分で集めてみようと思い立った。幸いにも松山市のマンホールカードが手元にあったことや、割と身近な場所で配布していることもあって、マンホールカードを収集することに決めた。私が住んでいる地元のマンホールカードからスタートし、併せてデザインマンホールの写真も撮影することにした。

収集範囲は、地元から東京都へ、その後は埼玉県、神奈川県、千葉県と徐々に拡大している。東京都や神奈川県は比較的集めやすかったが、埼玉県はマンホールカードを発行する自治体が広範囲に及ぶため、なかなか効率よく集めることができない。関東だけではなく、香川県に行く途中で下車し、岡山市や倉敷市のマンホールカードを収集したこともある。

今では50種類のカードが手元にあり、その内訳は東京都19枚、埼玉県10枚、神奈川県14枚、千葉県2枚、京都府1枚、岡山県3枚、愛媛県1枚である。平日しか配布していないカードもあったりするので、月一休暇を利用して収集したこともある。

3. 収集の楽しさ

(1) カードのデザイン

私の好きなマンホールカードは、キャラクターや名所旧跡といったデザインよりも、幾何学的な模様やシンプルなカラーリングを採用したマンホールカードだ。

自分が集めたカードで言えば、琵琶湖疏水記念館で配布している京都市発行のマンホールカードだろう。このマンホールは、京都市の紋章の周囲に「御所車」の車輪模様を配置したシンプルな図柄である。



©GKP

単純であるが、京都らしさを感じる一枚だ。特別なデザインマンホールではなく、いたるところで見ることができる普通のマンホールをカードにしている点も好ましい。

市の花である「あじさい」を幾何学的な模様で表した神奈川県相模原市のマンホールカードや、同じく市の花である「鉄砲ユリ」と「竹ざる」を配置した埼玉県川口市のマンホールもシンプルで好きな一枚である。



©GKP



©GKP

また、地域ごとにベースカラーを変えているので、その地域をコンプリートするという目標が立てやすいし、カードホルダーに収納したときの見栄えが良い。

マンホールカードは継続的な配布を自治体に求めており、在庫がなくなっても増刷して再び配布してくれるので、コレクションがしやすく安心だ。在庫状況はウェブサイトで知らせてくれるが、在庫が切れたタイミングとウェブサイト掲載までの狭間に出かけてしまうと、残念ながら入手できないこともある。私の場合、東京都の小金井市と日野市を訪問した際、在庫切れだったことがあった。先に電話で確認すれば良いのだが、思い立って家を出たため、事前確認を怠ったのである。その後、定期的にウェブサイトをチェックしつつ、再配布となったときには急いで訪問し、2枚とも確保済みである。

(2) コンプリート感

マンホールカードは、自治体などの配布場所に行かないと入手できず、しかも一人に一枚しか配布されない。そのため、マンホールカードを入手したい人は、必ず現地に出向く必要がある。全ての種類を集めたいと思うが、北海道から沖縄までの全国にわ

たって配布されているので、コンプリートすることは難しい。

しかし、マンホールカードの優れた点は、多種多様なコレクション方法を提案していることにある。マンホールカードには、特定のデザインだけを収集するコレクターも取り込めるように、「動物」「植物」などを表すピクトグラムを設けている。このピクトグラムの一つをコンプリートする集め方もおもしろい。また、マンホールカードには「デザイン管理ナンバー」「コレクションナンバー」「製造管理ナンバー」が付与されており、そのナンバーが示す情報を確認しながら、同じデザインでも異なるナンバーのマンホールカードを集めるといった楽しみ方もある。

(3) 行程

私自身は、できるだけ多くの種類を収集したいと思っているが、収集することよりも、その土地に到着するまでの行程が楽しいようだ。鉄道＋徒歩が基本であるが、たまにバスに乗ることもあり、乗客が私だけということもあった。マンホールカードの収集という目的がなければ、おそらく一度も行かないであろう場所を訪問することになる。一回の行程で効率よく複数個所を訪問できないか、あるいは何かの途中で立ち寄れないだろうか、など考えることも楽しい。

これまで、一度だけ同じ同好の士に会ったことがある。東京都国分寺市のマンホールカードをもらいに行くのと、デザインマンホールの設置場所を記載した地図がもらえる。もらった地図を頼りに、マンホールの写真を撮影していると、同じ地図を持ってマンホールを撮影している男性がいたので、同じコレクターであることがわかった。しかし、コレクター同士で話すことはなく、譲り合いながら、それぞれ写真を撮影し、挨拶することもなく駅に戻った。

(4) 配布場所

配布場所は、自治体の下水道関係課（または自治体関係の施設）、観光案内所、展示館といったところが多いように思う。

私は市役所や町役場の下水道関係課を訪問できると、その職場の雰囲気わかり、職員の方にも直接に会うことができるのでうれしくなる。自治体は平日のみの配布が多いため、私も休暇を取得してもら

いに行くが、仕事中の職員にマンホールカードをもらう時は、「忙しいのに申し訳ない」と思い、少し気が引ける。なお、神奈川県愛川町では、休日でも町役場でマンホールカードを配布しているの、これ幸いともらいに出かけた。職員不在の部署は照明を落としているため、フロア全体が薄暗く、びくびくしながら入館した。

また、東京都小平市のマンホールカードは「小平市ふれあい下水道館」で配布している。ここは地下25メートルの実際に使われている下水道管の中に入ることができるので、お近くの方は立ち寄られると良いと思う。いろいろなものが流れていることがわかり、「下水道って大切だな」と改めて実感できる。

また、東京都瑞穂町では、瑞穂町郷土資料館けやき館でマンホールカードを配布している。私が訪れた時には、瑞穂町の湧き水なのか、来館者にペットボトル（2リットル）2本を無償で提供していた。残念ながら最寄り駅から20分かけて歩いてきたので、丁寧にお断りさせていただいた。

(5) 写真撮影

前述したとおり、マンホールカードの配布場所では、デザインマンホールの設置場所を記載した地図がもらえる（こともある）。私は、なるべくデザインマンホールの写真を撮影したいと思っているが、配布場所とデザインマンホールの設置場所とが離れており、更に電車に乗って移動しなければならないこともある。そのような場合には、マンホールカードを手を持った写真を撮影することにしており、この雑文に掲載している写真がまさにそうである。

なお、デザインマンホールには、マンホールカードになっていないマンホールが存在する。最近でいえば、ラグビーワールドカップ2019仕様のマンホールが開催都市で設置されている。マンホール愛好家であれば、是非とも写真に撮りたいだろうと思うが、私はマンホールカード愛好家なので、カードになっていないマンホールには興味はなく、見つけても写真は撮影しない。

(6) 昼ご飯

通常、午前11時頃に家を出発し、午後1～2時くらいに到着する。そのため、お昼は現地や行程の途中で食べることが多い。私一人の場合には、駅構内

の立ち食いそばを第一優先とし、それがなければファストフードを選択している。時々家族と一緒にマンホールカードをもらいに行くこともあり、その場合には定食屋や中華料理などが多いようだ。なお、我が家には「カレーは夜ご飯」という決まりがあるので、ここ数年は昼にカレーを食べたことがない(と思う)。

4. INPIT 地団カード

私がINPITで勤務していた時に、マンホールカードを参考として「地団カード」を発行した。

2019年9月25日に名古屋で、中部経済産業局とINPITの共催による「ビジネス×知財フォーラム」を開催することになったが、せっかく東京・大阪以外の都市で開催するので、何か地域にメリットのある企画を導入したいと考えたことが、地団カードの発行につながった。地域団体商標の啓発や、地域団体商標に係る特産品の購入のきっかけ、そしてINPITの知名度の向上を意図した企画である。

マンホールカードを参考に、地団カードの表面には地域団体商標を表す写真を掲載し、裏面には特産品の紹介を掲載した。地域ごとのカラーリングや管理番号も付与することにした。ただし、カードの全体的なデザインは、マンホールカードと異なるよう

工夫をしている。

地団カードの第一弾として、「大門のしめ縄」「豊川いなり寿司」「常滑焼」「西尾の抹茶」「有松鳴海絞」の5種類のカードを作成し、継続的に配布している。多くの愛好家に地団カードをツイート(#地団カード)してもらいたいが、現実には厳しいようで、まだまだ工夫が必要と思われる。第二弾も計画中と聞いており、新たな地団カードが作成配布されることを楽しみに待っている。

5. GKPと自治体の連携

マンホールカードは、その質感の統一性を大切にしているため、自治体が資金を負担するものの、発行はGKPが一元的に行っている。

また、マンホールカードの著作権は、全てのカードについてはGKPが、個別のカードについてはGKP及び各自治体が保有する。なお、表面デザインにキャラクターが使われているマンホールもあり、当該キャラクターの著作権は別の権利者が保有する場合もある。

マンホールカードのウェブサイトは非常に便利であり、頼りになる存在である。この運営を行っているGKPに対して、愛好家を代表し御礼を申し上げたい。



©INPIT

©INPIT

©INPIT

©INPIT

©INPIT

まだ発行していない地方自治体の参画を促し、今後も継続して新たなマンホールカードを発行してほしい。日本にとどまらず、外国のマンホールカードを発行することも面白いのではないだろうか。

6. その他の公共カード

公共カードにもいろいろな種類があるが、地団カードを作成するにあたって調査をしたものから幾つか紹介したい。インフラや観光地を題材とするカードが多いように思うが、カードをきっかけとして理解を深めてもらったり、観光客を呼び込みたいという目的があるのだろう。

(1) ダムカード

ダムカードは、国土交通省と独立行政法人水資源機構の管理するダムで発行されている統一デザインのものだけでなく、都道府県の管理するダムでも発行されている。統一デザインのダムカードは2005年から発行されているので、公共カードの先駆けと言ってもいい。インフラツーリズムと相まって「ダムカレー」「ダム女」といった用語も注目を集めている。

ダムカードは標準規格を示すだけであり、その規格に従って自治体が独自に発行することも可能である。そのため、統一デザインで作成されたもの／統一デザイン以外で作成されたもの、が混在している。クラウドファンディングを利用し、ダムカード発行に必要な資金を調達している自治体もある。

(2) 名水百選カード

環境省は、2015年度に国民参加型の人気投票「～名水百選30周年記念～『名水百選』選抜総選挙」を実施し、これを記念して「名水百選カード」を作成した。各自治体の窓口で配布されており、2017年4月現在、日本全国で48箇所（48種類）が作成されている。

(3) かなキャラカード

かなキャラカードは、神奈川県厚木市が、県下のマスコットキャラクターが集合する「かなキャラ大集合！」の参加団体に呼び掛けて実現したものであり、ご当地マスコットキャラクターへの関心の広がりや愛着の高まりを目指している。私は、神奈川県

愛川町の町役場にマンホールカードをもらいに行ったときに入手した。

(4) 歴まちカード

歴まちカードは、国土交通省が所管する「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」に基づいて認定された、関東甲信地方の都市（歴まち認定都市）が、その魅力をPRするために作成したものである。観光案内所などで配布されており、神奈川県小田原市の小田原宿なりわい交流館にマンホールカードをもらいに行ったときに入手した。

7. 結び

私のマンホールカード収集歴は1年程度にすぎず、諸先輩方の知見には到底およばない。しかし、今回、自分の印象や感想を紹介したことにより、マンホールカードや他の公共カードの存在を知り、少しでも興味をもっていただければ幸いである。

「集める」ためには、いつもの日常から「移動する」ことが必要であり、そこでは違った風景に「触れる」ことができる。この「集める」「移動する」「触れる」の何処かに楽しみを見いだしたならば、あなたもマンホールカード愛好家になるはずだ。

profile

谷山 稔男（たにやまとしお）

平成元年4月	特許庁入庁
平成5年4月	審査官
平成15年4月	審判官
平成19年7月	日本貿易振興機構北京事務所
平成24年4月	審査第一部審査長
平成25年7月	審査第一部上席審査長
平成27年7月	審査第一部首席審査長
平成29年7月	(独)工業所有権情報・研修館
令和元年11月	審査第一部長（現職）